

# ただみ・モノとくらしのミュージアム 企画展

## 『奥会津の着る民具モノ—糸づくりから現代まで—』開催中

ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、現在、『第3回企画展 奥会津の着る民具—糸づくりから現代まで—』を開催しています。本展は、〈プロローグ 現代に生きる仕事着の技〉、〈第1章 只見の糸づくり・布づくり〉、〈第2章 只見の仕事着〉の3章で構成されています。仕事着の中でも“布”でできたものに焦点を当てました。

只見町には「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」という国重要有形民俗文化財に指定された民具があります。2,333点のうち416点は仕事着です。代表的なものに、上衣「サシコハンテン」と下衣「ユッコギ」があります。本展のプロローグでは、「サシコハンテン」を現代に復活させた〈南郷刺し子会〉、「ユッコギ」の再現が活動のスタートとなった〈めいわ縫子さん〉を紹介しています。

### 〈めいわ縫子さん〉展示風景



〈めいわ縫子さん〉は、当館の開館にあわせて、何か協力したいという思いで活動がはじめられました。国指定民具になっている仕事着をもとにした、只見の仕事着の再現から始まり、現在では、ミニのシゴトシとユッコギの壁掛けや、着物を使用したワンピースなどの洋服を制作しています。

### 〈南郷刺し子会〉展示風景



「南郷刺し子」をはじめとする、南会津地方の刺し子文化は、伊南川沿いの南会津町（南郷地区・伊南地区・館岩地区）および只見町（明和地区）に分布しています。明治時代には衰退したこの文化を復活させたのが、南会津町の〈南郷刺し子会〉です。

第1章では、「只見の糸づくり・布づくり」と題し、使用された民具や写真を展示しています。仕事着の素材は、麻や木綿などの自然素材です。只見地域ではアサ（大麻）を生産していました。また、養蚕も盛んで、繭から絹が作られていました。



第1章 展示風景  
カイコが繭を作るマブシ(右下)の製作映像も展示しています。

第2章では、「只見の仕事着」と題し、国指定民具の仕事着を、種類ごとに展示しています。作業や季節に合わせてさまざまな工夫があります。オオゼキなどの共同作業で着られた「サシコハンテン」は、只見町採集の3点に加え、南郷刺し子会から借用した3点も展示しています。

6月まで開催した第2回テーマ展は、民具の中でも身につける民具に焦点を当て、さまざまな素材の仕事着を紹介しました。今回の企画展は、その拡大版として、古くて新しい「仕事着」を100点以上展示している大規模な展覧会です。ぜひご来館ください。

文・写真 原永円香



## ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報 入館無料

### 第3回企画展「奥会津の着る民具—糸づくりから現代まで—」

会期：2024年7月20日(土)～2025年2月11日(火・祝)

会場：ただみ・モノとくらしのミュージアム展示ホール・ギャラリー